

2021年度奈良ESD連続セミナー③ 概要報告

ESDの学習理論の理解促進

担当者：中澤静男（奈良教育大学）

◇開催日時	2021年7月1日（木）19時～21時
◇方法	ZOOMによるオンライン
◇参加者数	28名
◇内容	ESDの学習理論の理解促進

1. 行動の変革を促す3つの方法

- ・罰を与えて行動を規制する 幸せな社会づくりに矛盾する
- ・ナッジ 意識せずに（価値観はそのままで）行動の変革を促す
- ・ESD 意識して（価値観を変革し）行動を変革できるように促す

(1) 行動経済学を用いたナッジ (Nudge) 理論

強制することなく、その人がよい行動をするように（環境を調整することで）そっと促す

①ナッジ・デフォルト

そのようにしてほしいことがデフォルト（標準）になるように設定しておく。

（例）コンビニのレジ前や駅のプラットフォームに描かれた矢印

②ナッジ・フィードバック

ある行動をすると、ある特定の反応が返ってくる仕組みをつくる（統一する）。

（例）冷蔵庫のドアが開放されている時間が長くなると鳴り出す音

③ナッジ・インセンティブ

ある行動をすると得する仕組みをつくる。

（例）「今だけ、先着〇〇名様に、プレゼント！」

④ナッジ・選択肢の構造化

ある行動や特定の選択肢に導く仕組みをつくる。

（例）居酒屋やレストランのメニュー表示「本日のおすすめ」

(2) 意識して（価値観を変革して）行動の変革を促すESD

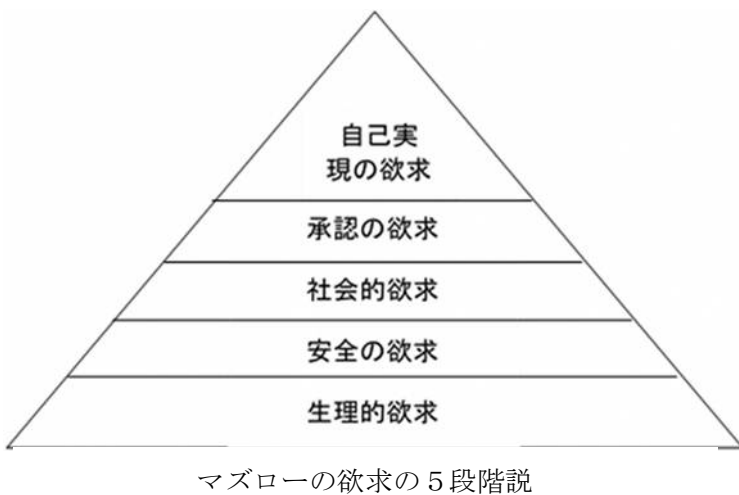
ESDで育てたい価値観

- ・世代間・世代内の公正を重要視する価値観
- ・自然環境や生態系の保全を重要視する価値観
- ・人権・文化を尊重する価値観
- ・幸福であることを大事にする価値観

◇これらの価値観を育てる活動

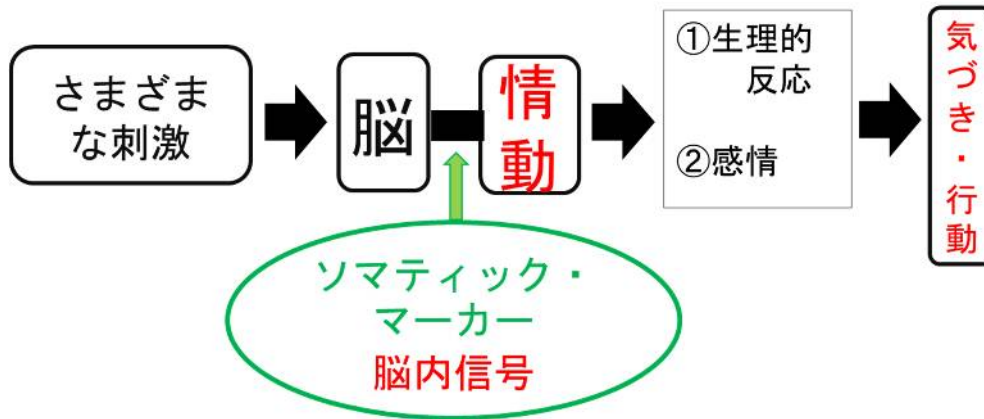
- ・利他的活動・ボランティア活動、自然との交歓、人との交歓

◇ボランティア活動を促すために



- ・人は、下位の欲求が満たされることで、上位の欲求に向かうことができる。
- ・自己実現の欲求（社会のために役立つことがしたいというボランティア活動に直結する欲求）に向かうためには、承認の欲求が満たされることが必須。
- ・承認の欲求に大きな役割があるのが保護者であり、教員である。

2. ソマティック・マーカー仮説：気づく力こそが重要



ソマティック・マーカーテスト

(1) ソマティック・マーカー装置を鍛える

繰り返し経験し、繰り返し学習することで、知識の網の目を細かくする

→ カリキュラム・マネジメントの必要性

3. カリキュラム・マネジメントの概要

◇学校としてESDで育てる子ども像を明確な言葉で表現する（フワッとした言葉でなく）

◇それに向かって、各学年でESDで育てる子ども像を具体的な子どもの姿で表現する。

← 振り返り・洗練化が容易になる

◇活動・学習内容は簡潔に（年度で変更可）

◇目標とする子ども像を明記（これに即していれば、年度途中の変更も可）・いつもそこにもどって見直しできるよう。

◇カリキュラムに記載したらいいこと

- ・各学年のE S Dで目指す子どもの姿、各単元でE S Dで目指す子どもの姿

◇記載内容のカテゴリー例

- ・人との交歓・体験的な学習、自然との交歓・体験的な学習、利他的活動（ボランティア）
- ・データ化のスキルを育てる場面、ロールモデルとの出会い（あこがれ）の場の設定

4. E S Dの視点（見方・考え方）

ソマティック・マーカーで気づいたら、着目し、評価する（判断する）E S Dの視点

見方・考え方	身の回りでよさの見つけ方	課題の見つけ方
①多様性	色々なものがある 色々な方法が用意されている	画一的、多様性に乏しい、選択肢がない
②相互性	つながっている方がいい 循環しているのはいいこと	孤立している・循環していない
③有限性	ものには限りがあるという認識 物を大切に修理しながら長く使う	大量生産—大量消費—大量廃棄 使い捨てが当たり前
④公平性	個別に必要な支援を与え、公平な 状態にしようとしている。	不公平、今さえよければ、自分さえよければ
⑤連携性	できるだけ多くを巻き込んでいる 分け隔てしていない	分断、排除している
⑥責任性	協調性がある・やりとげている リーダーシップを発揮している	責任転嫁、やりっ放し、言いっ放し

①・②・③は社会環境・自然環境、④・⑤・⑥は人物の行動や発言を評価する視点

5. E S Dで育てたい資質・能力

- ①クリティカル・シンキング（物事を問い直し、新たな方法を見いだす力）
- ②システムズ・シンキング（物事を総合的にとらえる力）
- ③長期的思考力（データに基づき、先のことを見通す力）
- ④コミュニケーション力（人の意見を聞いたり、自分の意見を発信したりする力）
- ⑤協働的問題解決力（他の人と協力して最後まで取り組む力）

※教科におけるE S Dでは、教科の目標があるので、直接的にE S Dの価値観や視点の育成を目標にできない場合があります。その場合でも、「能力」については、育成できるよう授業を考えます。

6. E S Dの学習過程（探究的な学習）と育てる資質・能力

①教員による工夫のある導入：ソマティック・マーカーが発せられる 「?」「!」

②その「こと・もの・ひと」をE S Dの視点で検討し、
学習課題をつくる。→クリティカル・シンキング

（答えが複数存在する問い：「なぜ～?」「どうして～?」「どのように～?」）

③仮説をつくる

仮説を作る際には知識の構造化が必要になる→概念的知識、見方・考え方の獲得

システムズ・シンキング、長期的思考力

④調査活動（グループ学習）：コミュニケーション力、協働的問題解決力

調査結果のまとめ：

コミュニケーション力、協働的問題解決力、システムズ・シンキング、長期的思考力

⑤話し合いと考察：長期的思考力、システムズ・シンキング、コミュニケーション力

⑥発信・行動化：協働的問題解決力、コミュニケーション力

※学習過程において、このような資質・能力を養うことができるということを、指導者が理解して指導に当たる（アドバイス、指示、問いかけ、声かけ）ことが、子どもの資質・能力を育てる。

①～⑥の繰り返しで育つE S Dの価値観とそれに基づくソマティック・マーカー装置、E S Dの視点の洗練化、資質・能力の育成を一体的に育むことが可能になる。

